学校番号	３０１３

令和３年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	３単位	年次	１年次
使用教科書	「改訂版 数学Ⅰ」（数研出版）、						
副教材等	「Focus Gold Bridge 高校への数学」（啓林館） 「改訂版 チャート式数学Ⅰ＋Ａ」（数研出版） 「三訂版 短期完成 データの分析ノート」（数研出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

何よりもまず、授業を大切にして、予習復習する習慣を身につけてください。

次に、買ってもらった**参考書**を見ればわかるように、文系理系に限らず、高等学校での数学の問題量はとても多いです。授業と並行して**必ず毎日問題を解くようにしてください。この習慣付けが一番大切です。テスト前にまとめて解くのは授業についていけない原因となります。**できる限り普段の授業時での復習をしてください。この勉強法を１年生から毎日続けていれば驚くほど力がつくはずです。

わからない問題はクラスの仲間で話題にし、解けた人はまだ解けていない人に積極的に教えてあげてください。教えたほうも教わったほうも、ともに理解が深まりますし、こういうクラスの雰囲気が大切です（これは数学だけに限りません）。

参考書の使い方について

授業と並行して毎日、自分で解くようにしましょう。じっくり時間をかけて取り組むことが大切です。また、参考書用のノートを各科目に分けて２冊作ります。ノートには**答だけでなく解法も文章の形で書く**ように心がけましょう。一度の学習ですべてを理解するのはなかなか難しいですが、繰り返し取り組むことで理解できる範囲が広がり、また、理解は深まるはずです。最終的には、**隅から隅まで「完全読破」をめざして**ください。解答の書き方については、初めは参考書を真似するくらいの気持ちでいいでしょう。

２　学習の到達目標

①高等学校レベルの数学の学力を身に付けさせる。
②参考書などをフル活用し、問題集を自学自習・グループワークで解く習慣を身につけさせる。
③学校の授業を第一に考え、予習復習を習慣付ける。
④単なる計算に終わるのではなく、じっくり何通りもの解法を考え、数学に対する楽しさを実感させる。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:数学的な見方や考え方	c:数学的な技能	d:知識・理解
観点の趣旨	数と式,2次関数,図形と計量,データの分析，場合の数と確率，図形の性質または整数の性質における考え方に関心をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	数と式,2次関数,図形と計量,データの分析，場合の数と確率，図形の性質または整数の性質において，事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身に付けている。	数と式，2 次関数，図形と計量，データの分析，場合の数と確率，図形の性質または整数の性質において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数と式，2次関数，図形と計量，データの分析，場合の数と確率，図形の性質または整数の性質における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，基礎的な知識を身に付けている。
評価方法	確認テスト 単元テスト ワークノート レポート 観察等	単元テスト 定期テスト ワークノート レポート 観察等	確認テスト 単元テスト 定期テスト 観察等	確認テスト 単元テスト 定期テスト レポート 観察等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

期 学	元 単	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	Ⅰ 数と式	第１節　式の計算 第２節　実数 第３節　１次不等式	○	○			a:具体的な事象の考察に式の展開や因数分解などを活用しようとしている。 b:一つの文字に着目したり、一つの文字に置き換えたりするなどして、いろいろな式の見方をすることや、目的に応じて、的確に式を変形する方法を考察することができる。 c:式を用いて事象を適切に表現することや見通しをもって式を扱うこと、そして、乗法公式や因数分解の公式などを用いて、式を目的に応じて変形することができる。 d:乗法公式及び因数分解の公式の意味や複雑な式が簡単な式に帰着できることを理解している。	ワークノート 定期テスト
	Ⅰ 集合と命題	命題、必要十分条件		○		○	a:集合の包含関係と命題を関連付けて捉え、それらを命題の考察に活用しようとしている。 b:ベン図などを用いて数学の対象を整理しそれらを多面的・統合的に見たり、事象を命題として表現し、考察したりすることができる。 c:与えられた二つの集合の共通部分や和集合、補集合などを求めたり、簡単な命題やその命題の逆・裏・対偶について真偽を証明したりすることができる。 d:集合に関する基本的な用語・記号を理解し、命題の必要条件・十分条件、逆・裏・対偶などを集合と関連付けて理解している。	単元テスト ワークノート 定期テスト
	Ⅰ 二次関数	第１節　2次関数とグラフ 第２節　２次方程式と２次不等式			○	○	a:二次関数の値の変化に関心をもち、具体的な事象の考察に二次関数の最大・最小を活用しようとしている。 b:二次関数の値の変化の様子について、グラフを用いて考察することができる。 c:二次関数のグラフや式を用いて、二次関数の最大値・最小値を求めることができる。 d:二次関数の最大値・最小値とその求め方について理解している。	単元テスト ワークノート レポート 定期テスト

	Ⅰ図形と計量	第１節　三角比 第２節　三角形への応用			○	○	a:三角比や正弦定理・余弦定理などを平面図形や空間図形の計量に活用しようとしている。 b:平面図形や空間図形の計量に活用するために正弦定理・余弦定理の式を多面的に見ることができる。 c:三角比や正弦定理・余弦定理を用いて平面図形や空間図形の計量をすることができる。 d:正弦定理・余弦定理の利用の仕方及び三角形の面積の求め方について基礎的な知識を身に付けている。	単元テスト ワークノート 定期テスト レポート
後期	Ⅰデータの分析	データの分析	○	○		○	a:散布図や相関係数などを用いてデータの相関を把握し、それらを事象の考察に活用しようとしている。 b:散布図や相関係数などを用いてデータの傾向を捉え、それらを的確に表現することができる。 c:散布図を描いたり、相関係数を求めたりすることができる。 d:散布図及び相関係数などの意味を理解している。	単元テスト ワークシート 定期テスト
	Ⅱ式と証明	第１節　式と証明 第２節　等式と不等式の証明		○	○		a:色々な式について興味をもつ。 b:なぜこのような証明方法が出てきたのかを考える。 c:有名等式、不等式の証明についてきちんと論理的にかけるようにする。 d:発展的な内容についての証明の論理的な思考について理解する。	単元テスト ワークノート 定期テスト
	Ⅱ複素数と方程式	複素数 解と係数の関係 高次方程式		○		○	a:複素数の成り立ちについて興味を持たせる。 b:高次方程式と解と係数の関係の関連性について思考を深める、 c:ｉを含む式、高次方程式についての計算をすることができる。 d:高次方程式の解の個数、解の範囲などについて発展的な問題について理解を深める。	単元テスト ワークノート 定期テスト

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:数学的な見方や考え方
　　c:数学的な技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。